

## 沼津高専電気電子工学科の就職指導

望月 孔二\*

### Career counseling in National Institute of Technology, Numazu College, Department of Electrical and Electronics Engineering

Kouji MOCHIZUKI\*

Abstract : This report describes a career counseling in department of electrical and electronics engineering, national institute of technology, Numazu college. The employment test is an opportunity for a student to grow up. Students can choose his job through the counseling with a vocational guidance teacher.

Key Words: career counseling

#### 1. はじめに

私が沼津高専電気電子工学科で就職指導を始めたのは2011年1月だった。その後今日まで、7学年の就職指導を続けてきた。この報告では7年間の就職指導を踏まえて作り上げてきた学科の就職指導体制を、現5年生の就職活動を中心に記すことで、就職指導体制を再確認する。

なお、沼津高専の就職日程はその年度の就職問題懇談会申合せに則って行われており、学生に対する企業からの広報活動開始は卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始は同6月1日以降である。

#### 2. 就職希望学生

当学科の年度ごとの5年生の人数と就職希望学生の推移を表1に示す。年度による違いはあるが、クラスの約半数が就職を希望している。

クラス成績と就職希望学生の関連を示すのが表2である。この表では、4年次の学年末試験結果をクラス順位1~10、11~20など十名ごとに分けて、その中の何人が就職を希望したか記した。全般的には成績上位者が進学、成績企業が就職を希望する傾向が見られるが、好成績の学生が即進学希望に限られるわけではない。

#### 3. 企業からの求人

およそ20名弱という例年の就職希望学生数に対し、2017年度の5年生には約600社という多くの企業から求人があった。複数回の求人票送付をする企業もあるため、受け取った回数だけ数えれば約千通である。また、約200

社から、求人訪問によるご挨拶を頂いた。

ここで、企業数について「約」としているのは、数え方に曖昧さが含まれるからである。もしも採用したい企業が求人票を送付しているだけならば単純である。しかし、企業グループとして2社分の求人票があって1社については高専生を数名以上の単位で採用するものの、もう1社の採用数が若干名といったときは数え方に苦慮する。この報告書内でも企業数は一貫していない。

求人のご挨拶と求人票の受け取り数を、横軸を日付としてグラフにしたのが図1である。ご挨拶の最盛期は1月から3月であり、毎月約50社、勤務日で均せば約2.5社/日であるが、一日に6社、7社のご挨拶を頂くこともあった。図2には、ご挨拶を頂いた企業数と、前年度もご挨拶があったかを年度ごとに記す。ご挨拶の数は毎年約20社ずつ増えてはいるが、「2年連続してご挨拶」という企業は、その年度のご挨拶の企業数の約半分である。なお、同じ図に、2017年度から「連続したご挨拶」をさかのぼったものも記した。

表3は、業種別に求人数をまとめたものである。生産用機械器具~情報通信機械器具を一通りするという大雑把な区切りになってしまった理由は、これらの業界は明確な区別をつけにくいからである。表内には参考として、全就業者数の中の割合も記した。工事業と製造業からの求人が多いのは、業務上工学系の技術が生きる業種だからである。

特に目立つのは、石油精製業からの求人であろう。日本の就業者数の割合から見ると0.05%というこの業界は、当学科にご挨拶に来てくださった企業数の1%である。この二つの数の割り算を表内の「②÷①」の欄に記す。この値が大きい順にみると、石油精製(②÷①=20)、輸送用機械(同8.4)、鉱業(同8)、生産用~情報通信機械(同6.6)、化

\* 電気電子工学科

学工業（同 4.9）、電気・ガス・水道（同 4.4）、食品（同 3.9）である。これらの業界は熱烈に高専生を求めているものと感ぜられる。

なお、表 3 最右欄の「学生の就職先」は第 7 章で触れる。

#### 4. 就職活動を支援する「求人企業のデータベース」

求人のご挨拶の来訪があったとき、就職担当は 30 分程度面談する。その際私は、その企業が高専 OB にとって生き生きと働ける職場か考えながらメモを取っている。

ご挨拶で頂いた資料はパイプファイルに綴じて、学生の閲覧に供している。更に資料の一部はスキャナで電子情報にし、沼津高専 E-Learning システム「Moodle」上にアップロードし、学生がログインしたら自宅でも見られるようにしている。特に本校では学生寮は春休み期間中は学生の居住を認めていないため、寮生活を送る新 5 年生が春休み期間中に情報閲覧するのに Moodle の役割は重大である。なお、私は電子情報化する際に必ずモノクロにしている。その理由は、学生の閲覧が Moodle だけに留まらずに原版（一般的にはカラー）こそ見てほしいからである。

面談の記録は Excel の表にまとめるとともに、pdf 化して Moodle 上にアップロードしている。これにより、学生が簡単に企業を比較できるようにしている。また、企業を業種別にまとめるなどの分析にも使用している。

なお、就職問題懇談会申合せに則り、パイプファイルも電子情報も、学生に開示するのは 3 月 1 日からである。

#### 5. 就職活動の方針・概要と、学生が学科に提出する文書

本学科の就職活動の基本は、学生や保護者の希望を叶えるよう努力することである。決して成績に応じて進学や就職を強制するものではない。

学生や保護者の正しい判断のため、前章で触れたデータベースの整備や、学生や保護者が就職指導教員と進路に向けたカウンセリングの機会を設けている。

高専生の就職活動は、基本的に「学校推薦」で行われる。通常の大学生が行う「自由応募」に比べて、学校推薦では合格後は就職先はその会社に限定されるが、試験として企業に行く回数が少ない。これは、授業の出欠席管理が厳しい高専生には大きな魅力である。ただし、学校推薦になったとしても、学生が乗り越えるべきハードルが低くはならないようである。なお、学校推薦を希望する学生には、成績も学生生活も「推薦を受けるのに十分な学生である」よう求めている。

表 4 には、学生や保護者に求める提出文書をまとめた。それぞれの体裁は印刷して学生に渡している。学校に来られた保護者にも渡している。また、Moodle からダウンロ

ードできるようにしている。

資料 H は、第一志望候補の 3 社の社名提出を求めるものである。もしも 3 社を超える企業を検討していたら、3 社に絞ることで、学生自身が何を優先的に考えるかはっきりする。一方、1 社しか考慮していない場合も、3 社の記入を求めている。そうした学生の大半は「その企業しか検討していない」であるが、「その企業と同等な満足度が得られる仕事ができる企業」を探す中で、その企業がきわ立つ理由を再認識してゆく。場合によっては第一志望の企業が変わることもある。

求人企業の数が多いためか、学生の希望が同一企業に重なることは少なく、学生は自分の第一志望に向けて就職活動を行えるのが普通である。

それでも稀に「学校推薦の学生を学科から最大 1 名募集」という企業に対して複数の学生から希望が重なることがある。その際は、まずは学生同士の話し合いによる調整を試みる。私の経験では、学生では調整しきれなかったことが一度あった。その時は、競合する学生が期日までに提出した資料 K を就職指導教員が比べ、高い充実度と見られる学生をその企業に向けて推薦する者に決定した。きっとその企業に向けて競合した学生は、「就職に何を求めるか」が整理できたのではないだろうか、その競合に勝った学生も勝てなかった学生も、それぞれ第一志望（または新たな第一志望）の企業から内々定を頂くことが出来た。

今後も競合が生じる可能性がある。求人数の多い高専では恐らく同業他社を見つけたりすることができると思われるが、いずれにしてもそうした場合には特に十分なカウンセリングが必要である。

#### 6. 就職活動の進み方

表 5 に 2017 年度 5 年生の就職活動の基本のスケジュールを示す。なお、表の左側に記載した「確認期」などの用語は私が名付けたものである。

2017 年度の 5 年生のうち就職希望者は 18 名だったが、その内の 5 名について具体的なスケジュールを表 6 に示す。最初に学生①が企業①の合格をもらった日程を説明する。

- ・学生①は企業①のインターンシップに行った。
- ・合同企業説明会に 3 回参加した。
- ・3 月に、企業説明会に 2 回参加した。そのうち 1 回は企業①であり、もう 1 回は別の企業である。
- ・4 月に入って第一志望を企業①に学校推薦で受けることと決定した。なお記録によると、企業決定までの学生と教員との面談回数は 6 回である。
- ・企業①に向けたエントリーシート（ES）指導や面接指導は 8 回が記録に残っている。

・6月に就職試験が一日行われ、内々定を頂いた。

学生②も企業②に向けて同様の日程で内々定を頂いたが、教員との面談の回数や、企業説明会（または工場見学会）への参加回数などは学生ごとに多少異なる。

学生③は企業③を自由応募としてエントリーし、3日の試験が行われて内々定を頂いた。

学生④は企業④に自由応募としてエントリーし、最終的に内々定を頂いた。この企業の試験は1日だけであった。

学生⑤は当初企業⑤を目指したが、「合格には2日の試験が必要」のところ、1日目の試験で不合格となった。続いて企業⑥をめざし、内々定に至った。

これ以外の学生も似たような日程で進められた。なお、クラス全体の指導の様子を以下に記す：

- ・就職する学生は殆どインターンシップの経験がある。なお、インターンシップに行った学生の約2～3割は、その企業を第一志望にした。
- ・学生は、3社の企業を資料Hにまとめて就職指導担当に提出する。資料Hは何回でも提出できる。
- ・担当教員による学生への就職指導は、1回あたり30分を単位として行っている。なお、1月は5名程度の集団の学生に対して指導するのが普通だが、2月は学生数が減り、3月以降は個別指導になる。
- ・「D=第一志望決定」より前の就職指導は、学生一人当たり約7回であり、テーマは企業選びである。
- ・保護者をご希望の保護者+学生+就職指導教員による三者面談も受けている。複数回でも可能である。
- ・企業選びの際は、学生が上げる3社の企業名を見て、「どの企業に対しても共通する学生の願い」を見極めている。その願いが明確でないうちは、学生の自己分析または企業研究が不足していると指導する。また、学生の第一志望の同業他社をご挨拶を頂いた企業中から選び、その検討も勧める。
- ・工場見学（または企業説明会）は、「できれば3社、少なくとも2社行きなさい」と指導している。全く訪問せずに第一志望を確定することは無く、ほとんどの学生が2・3社訪問して第一志望を確定させる。なお、7年間の中では3社の訪問では納得できず、結果的に9社訪問して就職先を決めた例もある。
- ・第一志望を決定した学生は、資料Kを記入して就職指導教員に提出する。なお、保護者が記入した資料Jが提出されていないうちは、資料Kは受け取らない。
- ・「D」以降の就職指導は、学生一人当たり約8回であり、テーマはES作成と面接対応である。「学生は1回ぶんどけ予約できる」としている。また、カウンセリングは1回あたり30分としている。

一日に2時間半程度対応するならば、毎日5人の学生に対応が可能である。最盛期の学生の週ごとの日程を見ると、同時の活動は最大10名程度である。従って学生は、最盛期でもほぼ2日に一度のカウンセリングを受けられる計算である。

- ・ES作成においては、とある項目に例えば200文字の記載が求められているなら、その2倍の例えば400文字のネタを考えさせてから文章を作らせている。「使わないネタを作ることが大切」とアドバイスしている。ESに書かないネタがあることは、面接に臨む際の学生の気持ちの余裕をもたらす。
- ・過去の指導の結果から得られた「自分の言葉で語ること」の重要性に鑑み、学生に自身の学生生活を見直させることを徹底している。
- ・不幸にして当初の落ちた場合は、速やかに次の第一志望企業を選ぶ必要があるが、そこで必要以上に時間がかかってしまう例はほとんど見られない。理由は、学生は資料H提出を通して「複数社を選ぶ能力」を鍛えているからである。
- ・1社目に落ちて、2社目を選ぶときは、「同業他社」と「異業種」はそれぞれ半々である。

## 7. 就職活動の結果と、改善案

表3の最右欄は、ここ6年間に内定を頂いた企業を業種別にまとめたものである。「ご挨拶の企業②」に対して「入社③」のパーセンテージが2ポイント以上大きいものを太文字にした。これらは学生に人気の業種と言えるだろう。該当するのは、食品、化学工業（含医薬品）、電気・ガス・水道、鉄道・航空である。これは、企業規模が大きいこと、宣伝が行き届いている企業が多いからだと思われる。特に、当学科は電気主任技術者の認定校であるため、工場においてその資格を生かしたいと考えるものが少なからずいる。

一方、ご挨拶を頂いた企業数に比して学生の入社が多くないのは工事・設備、金属製品・はん用機械器具、輸送用機械である。私の推定に過ぎないが、原因としては、電気電子工学科の学生によって意識しにくい業界だからではないかと思われる。

表7に合格に至る試験回数を示す。数年前は「合格率5～6割」であった。しかし最近では合格率が高くなり、ほとんどの学生が1社目で合格するようになってきている。

学生によっては合格が2社目や3目になることがある。私は、その大きな原因は、学生の準備不足だと感じている。例えば、過去に3社目の企業に合格した学生を思い出すとき、もしも3社目の企業を受けるときと同じだけの密度の

準備で1社目から挑んでいたら、きっと1社目か2社目に合格しただろうと感じることが多い。

原因のもう一つは学生の分析不足や適性違いであろう。不合格になった者の約半分は次に別業種を選ぶ。

原因の候補として「枠」の問題も挙げられかもしれない。とある学生が希望する企業に必要な能力を備えていたとしても、採用数に限りがあることで残念ながら不合格になることがありうる。ただし、この二・三年はこうしたケースは多くない。なぜなら、高専生の採用を望む企業の多くは、枠を超えた採用もあり得ると言うことが多いからである。特に電気電子工学科は、技術の応用先が広いためなおさら可能性が高い。

いずれにしても、学生は冬休みころから十分な準備を整えて就職試験に臨むことを望まれている。

企業によっては就職試験に対するエントリー時期が複数回設定されるので、自分にペースに合うどこかでエントリーすればよい。しかし、エントリーの時期が1回だけとする企業も存在する。そう言った企業の求人票を締め切りのたった1週間前に知った学生は、十分な準備をしてきた学生には敵わないであろう。

## 8. 就職活動で重要なこと

表8(図3)は、2018年4月入社のための就職試験が終わった後で行った「就職活動を振り返って」と題したアンケートの集計結果であり、図3はそのグラフ化である。

表8(a)は「就職活動で力を入れたこと」についてまとめたものである。ES作りと面接対策が就職活動で最も必要なことである。

表8(b)は「ESや面接で触れた話題」についてまとめたものであり、ESに記すエピソードは学生が企業にアピールしたいもの、面接で話題になったものは企業が学生から聞き出したいものと考えられる。

面接に関する「平均」の一つは全学生からの統計だが、この報告書では1名の学生の回答を除いた統計に注目する。その理由は、1名の学生は夏休み中のその企業のインターンシップに参加していたためか面接の話題が他の学生と大きく異なったからである。

PBL (Project Base Learning) は、4年前期の電気電子工学実験内に4名ずつのグループ毎に電子回路を設計・製作し、出来栄を競うコンテストである。

面接で多く触れられたのは、寮生活とクラブ活動とPBLであった。これらに共通するのは、「集団で何らかの目的達成に挑む」という特徴であり、企業がグループワークを重視していることがうかがえる。

この3つの中でESよりも面接で比率が下がったのはPBLだけであった。この理由の一つはPBLが研究開発型のエピソードであるため、好む業種もあるが、関係が薄くなる業種もあるからだと思われる。もう一つはPBLを強くアピールした学生の資質の問題であろう。寮にもクラブにもPBLにも積極的に特にPBLに力を入れた学生なら申し分ないが、そうでない場合はPBL以外に多くの質問を受けることになるものと思われる。

## 9. まとめ

私が7年間に作ってきた就職指導について記した。この報告書にて、今の体制についてかなり正確に記録にできたと自負している。

高専からの就職率はずっと10割を続けているし、特にここ二・三年は第一志望への合格率が高くなっている。しかしそれは楽々と達成できているのではなく、学生が社会から求められるレベルにまで成長することが必須である。

私は今後も就職指導を続ける限り、なるべく学生の願いが叶うべく支援してゆきたいし、体制の改善も続け、企業にて生き生きと働く卒業生を増やし続けたい。

### 参考資料・文献

- [1] 「産業、職業別就業者数」No.14, 2010年度政府統計の窓口, 総務省統計局, <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001069808>
- [2] 統計の数字は、学科の就職活動の結果である

表1 電気電子工学科5年生の人数と、就職希望学生数

「2018」とは 2018.4入社	2018	'17	'16	'15	'14	'13
クラス人数	33	39	38	37	40	39
進学	15	20	25	21	15	25
就職	18	19	13	16	26	14

表2 4年生の学年末試験の順位と就職希望学生数

	1 ~ 10	11 ~ 20	21 ~ 30	31 ~	クラ ス人 数
2013.4入社	2	4	6	6	36
2014.4入社	2	2	5	5	39
2015.4入社	2	7	8	8	40
2016.4入社	0	3	7	6	39
2017.4入社	1	2	5	5	40
2018.4入社, 4年生だったのは 2016年度	3	5	4	6	36



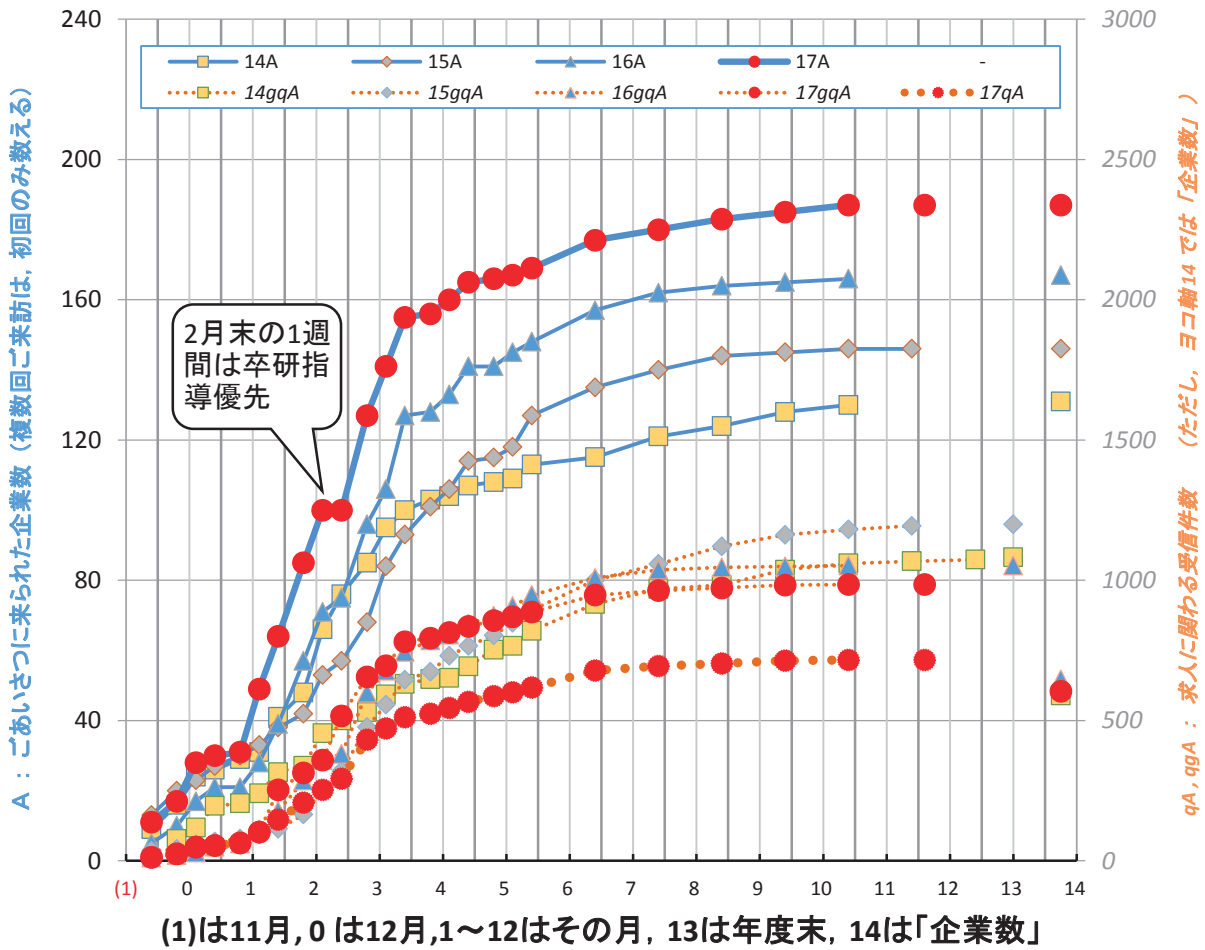


図1 求人のご挨拶 (A) の企業数と、学科が受け取った求人票の数 (s) と、学校宛の求人票の数 (g)

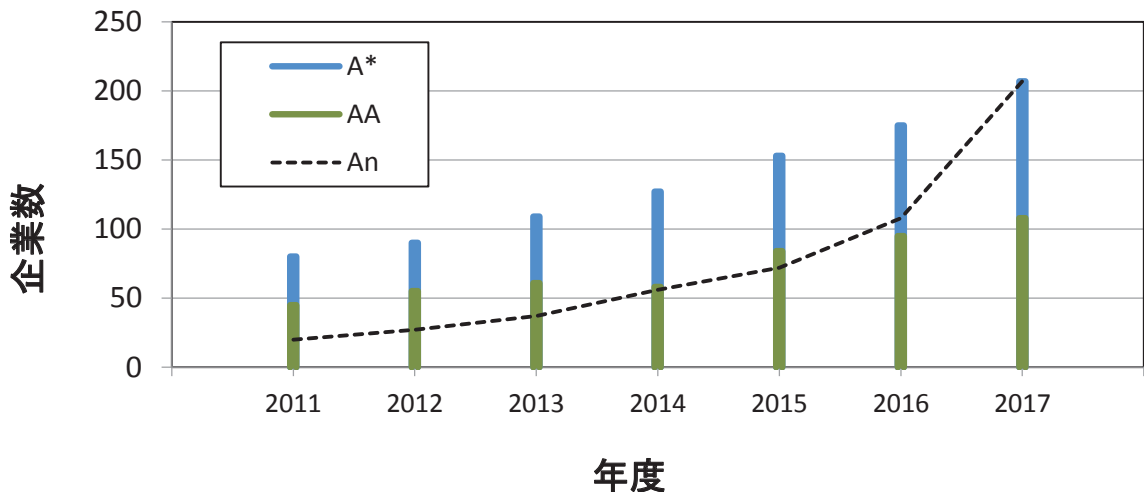


図2 ご挨拶の企業数の年次変化。 A\* は今年度にご挨拶があつて前年度にご挨拶が無かつた企業数, AA は今年度も前年度もご挨拶があつた企業数, An は 2017 年度から「連続したご挨拶」をさかのぼつたもの

表 3 業種別の求人企業と、就職

「②÷①」列の**赤い太字**は、同列内の上位7つ③列の**赤い太字**は、ご挨拶 (②) に対して入社 (③) のパーセンテージに3ポイント以上大きいもの

	①2010年産 業別就業者 数6256万人	②2017年度 にご挨拶があ った207社	②÷①	2017年度に 求人があった 686社	③13.4入社 ～18.4入社 の105名
農業・漁業	4.0%	1.0%	0.3	0.1%	0
鉱業	0.05%	0.4%	<b>8</b>	0.4%	1%
工事・設備	8.0%	12.9%	1.6	14.4%	8%
食品	2.1%	8.2%	<b>3.9</b>	4.3%	<b>11%</b>
紙パルプ	0.4%	0.5%	1.3	0.4%	1%
化学工業(除 医薬品製造, 化粧品)		1.4%		3.1%	<b>5%</b>
医薬品製造	0.9%	2.4%	<b>4.9</b>	1.6%	<b>11%</b>
化粧品		0.6%		0.8%	2%
石油精製	0.05%	1.0%	<b>20</b>	1.3%	0
プラスチック製品・タイヤ・チューブ	0.7%	1.8%	2.6	1.4%	1%
鉄鋼・非鉄金属	0.6%	1.5%	2.5	1.8%	0
金属製品・はん用機械器具	2.1%	3.1%	1.5	1.9%	0
生産用機械器具・業務用機械器具・電子部品・デバ イス・電子回路・電気機械器具・情報通信機械器具	4.3%	28.3%	<b>6.6</b>	26.7%	27%
輸送用機械器具(自動車, 船舶)	1.6%	13.5%	<b>8.4</b>	11.4%	5%
その他製造	0.6%	0.5%	0.8	1.3%	0
電気・ガス・水道	0.5%	2.2%	<b>4.4</b>	1.8%	<b>12%</b>
通信		3.1%		1.1%	4%
放送	3.1%	1.7%	3.4	0.5%	2%
情報サービス		5.8%		12.5%	4%
鉄道・航空	5.6%	2.9%	0.5	1.7%	<b>6%</b>
機械器具卸売		0%		0.2%	0
不動産売買・技術サービス・宿泊・娯楽		2.1%		2.2%	0
教育	4.6%	0%		0.4%	0
派遣		1.7%		4.2%	0
公務員	3.5%	0.5%	0.1	0.4%	2%
分類外		0%		2.6%	0

※ 2010年産業別就業者数は[1]による。

※ 製造業全体の就業者数は、全就業者の16.8%である。

表 4 学科が学生や保護者に求める提出文書

タイトル	説明	いつ、だれが学科に提出
資料 H	進路希望調査票(E科内文書) 「第一志望としての就職活動を検討する3社」を上げる。	学生が4年次の冬休み明けに提出。 その後も何回でも提出し直せる
資料 J	就職活動(学校推薦)承諾書(E科内文書) 就職活動に向けた保護者の方針を学校に伝えるもの。また、 三者面談(希望する方)の申請書でもある。	保護者が学生の意思を確認できたら提出。 提出は資料 K 以前が望ましい。遅くとも資料 K と 同時
資料 K	就職活動申請書(E科内文書) その企業に向けた志望動機や自己 PR など共に、企業研究 や、試験時期を記入。	就職活動をしたい企業を決めたなら学生が提出
資料 P	就職試験報告書(E科内文書) 最終的に Moodle 内に記録されるため、後輩は先輩が残し たこの記録を見ることができる。	その企業に対する就職活動が完了次第提出

表5 就職に向けたカレンダーの概要

時期	下級生	4年生		5年生		
		夏	1月	3月	5月	6月
1,2年生 3年生	ホームルームにて社会人の話しを聞く機会を設ける インターンシップマッチング会					
模索期	【夏】 インターン 【夏】 方向性考慮(進学か就職)(進学なら試験勉強進める) 【秋～年末】 工場見学旅行, 卒業生を交えた進路懇談会					
	【1月】 資料H提出(第3志望まで記載), 必要な面談 (企業研究も自己分析もまだまだな学生が大半)(更に究めるようアドバイスする) 2月中旬: 学年末試験					
検討期	【3月】 2017年度の求人票開示(前年度版は前から閲覧可) 3/5 東京(学研), 3/7 沼津(SBS), 3/9 名古屋(メディア総研) これら日程の合同企業説明会にて「工場見学先」を検討。 学内の企業情報も大いに参考にする。					
確認期	【3月～】 工場(企業)見学, 企業説明会, 希望者は資料H書替 【3月～】 もしも自由応募を希望するなら学生独自の活動が更に必要 【4月頃】 資料Hクラス内公開, 希望者は資料H書替					
挑戦期	【4月中旬】 資料K(第1志望確定)早い学生? 資料Jは資料Kに遅れない 【5月頃】 資料K(第1志望確定)全学生 【6月】 推薦試験(1) 資料P提出 (落ちたなら推薦試験(2), 資料P提出) 【10月】 内定式					

表6 2017年3月～6月の実際の記録から

I 学外実習=Internship の実施は夏休み, I#他社学外実習 #は決まった企業以外の場合に使用する2以上の数値  
A 合同企業説明会 (job fAir), B 工場見学(企業説明会 adoption Briefing session), B#: 他社工場見学, b 高専で話を聞く,  
D 志望決定(Deside) ⇨ E ES 発送(Entry), w ウェブ試験, P 試験1, Q 試験2, T 最終試験, X 不合格, Z 合格,  
| 就職指導 (記録残るもの, 通常は30分). これ以外の指導も有りえる

1 社目で合格						
	夏休～2月	3月	4月	5月	6月	
学生①, 企業①	I	A A A     B B <sup>2</sup>	D			TZ
学生②, 企業②	I	A b A A   B <sup>2</sup> B <sup>3</sup> B	D			TZ
学生③, 企業③	I	A A     B B <sup>2</sup>	D           P Q T Z			
学生④, 企業④	I <sup>2</sup>	A A     B <sup>3</sup> B   B <sup>4</sup>	D             T Z			

2 社目に合格						
	夏休-2月	3月	4月	5月	6月	
学生⑤, 企業⑤ 企業⑥	I <sup>2</sup>	A   A   B <sup>2</sup> B <sup>3</sup>       D	w     P X (T)   D			T Z

- ※ 同じ月内の時間軸は気にしていない。
- ※ 企業⑤と企業⑥は同じグループに属するので、企業②に対する工場見学に行かなかった。
- ※ 学校としての約45分の模擬面接も「|」とした。

表7 合格に至る試験回数

「2018」とは2018.4入社のこと	2018	2017	2016	2015	2014	2013
クラス人数	33	39	39	40	39	39
就職希望	18	19	13	16	26	14
うち女性	0	4	2	2	3	0
1社目で合格	17	17	12	10	11	8
2社目で合格	1	1		4	8	4
3社目で合格		1			3	1
4社目以降で合格			1 <sup>(1)</sup>	1	3	1
その他合格(自由応募など)				1	1	

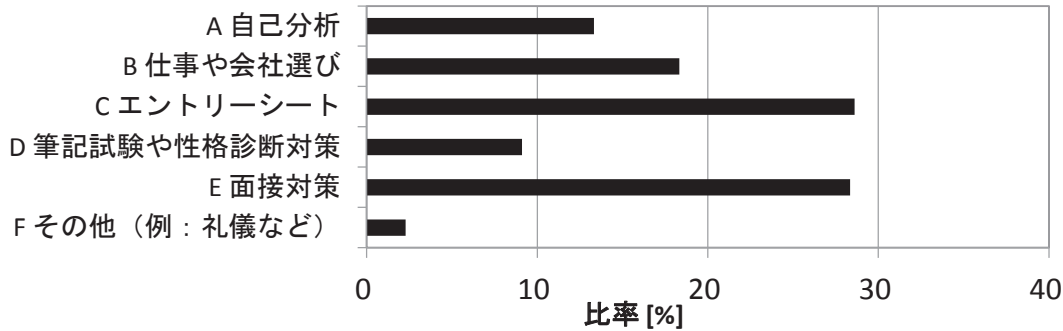
- ※ (1) 当初自由応募を試みた

表 8 (図 3) 就職活動を振り返って

(a) 就職活動で力を入れたこと。 クラス平均の上位 3 つは赤い太字にした

就活で力を入れたこと。ただし、A+B+C+D+E+F=100% とする	最大(%)	最小(%)	クラス平均(%)
A:「仕事や企業を選ぶために必要な自己分析」	30	5	13
B:「仕事や企業選び」	40	5	<b>18</b>
C:「企業へのエントリーシート作り」	45	10	<b>29</b>
D:「企業への筆記試験や性格診断対策」	20	0	9
E:「企業への面接対策」	45	10	<b>28</b>
F:「その他の対策 (例: 移動方法の調査など )」	5	0	2

F として挙げられていたものは、「移動調査, 身だしなみ, 礼儀」だった。



(b) エントリーシート (ES) や面接で触れた話題 どちらも、クラス平均の上位 3 つは赤い太字にした

「学生時代のエピソード」として、 何にどの程度触れたか	ES			面接時			
	最大	最小	平均	最大	最小	単純平均	平均. 除一人
A:「学業(主に講義)」	35	0	7	40	0	10	11
B:「寮生活」	50	0	<b>10</b>	50	0	14	<b>15</b>
C:「クラブ活動」	80	0	<b>25</b>	71	0	29	<b>30</b>
D:「学業(PBL=4年前期の, 班対抗 電子回路設計コンテスト)」	100	0	<b>35</b>	50	0	22	<b>23</b>
E:「学業(学生実験全般)の記述」	20	0	8	22	0	6	6
F:「学校内のその他の活動 (例: 高専祭 )」	60	0	8	40	0	4	4
G:「その他の活動 (例: ボランティアなど )」	40	0	8	100	0	16	11

挙げられたもの	ES	面接時
F として	高専祭 (沼津高専の学園祭) (3人), 体験入学スタッフ経験	高専祭 (沼津高専の学園祭), 学科全体での就職活動の雰囲気
G として	アルバイト(3人), インターンシップ (3人), 海外旅行, 普段の生活, 企業に入って 5 年後や 10 年後の自分の未来像, 人命救助の経験	アルバイト(3人), インターンシップ(3人), 海外旅行, 普段の生活, 企業に入って 5 年後や 10 年後の自分の未来像, 人命救助の経験

